

2006年度運動方針

1、核兵器のない21世紀をめざして草の根から世論と行動を

- ①「いま、核兵器の廃絶を」の署名を引き続きひろげると共に、日本原水協の新しい署名が提起されたときは、それに切り替えて署名運動を展開します。
- ②署名の目標は当面 10000 筆とし、原水協に加盟している団体は内部で協議し、自主目標を設定し署名活動を推進しましょう。
- ③100 筆の署名に挑戦するピースチャレンジャーを 100 名組織しましょう。
- ④毎月の6・9活動への結集を強めるために、簡潔な 6・9 ニュースを発行して各団体に参加をよびかけます。また、6・9 行動を原水協の理事だけの活動にしないために、各団体での 6・9 行動への参加と活動地域、時間帯も参加しやすいものにするために再検討します。
- ⑤2006 年 3・1 ピキニデーに複数の代表を派遣するための募金を、新年早々から取り組みましょう。そして、3・1 ピキニデーの報告集会を実施しましょう。
- ⑥2006 年の原水爆禁止世界大会に 10 名の代表団派遣を目指し、文化活動と結びつけた資金作りを企画し実施しましょう。

2、憲法9条を守る活動を強化し、反核平和運動を強化しましょう。

- ①自衛隊のイラクから早期に撤退をもとめる活動と憲法9条を守る活動を強化するために、くらしと平和を守る小金井連絡会や「9 条の会・こがねい」と協力しあって、活動を地域にひろげましょう。
- ②靖国神社の軍国主義賛美の実態を学習し、憲法9条を守ることの意義を多くの人に知らせましょう。
- ③横田基地が、日米軍事同盟とアメリカの地球的規模の先制攻撃戦略と深く結びついた合同司令部に再編されつつある中で、横田基地の危険な実態の調査・学習ツアーを企画しましょう。そして、横田基地の全面返還運動に積極的に参加しましょう。
- ④反核・平和活動の一環として、平和のコンサートや映画の夕べなどの文化行事などを企画し成功させましょう。

3、被爆の実相を若い世代に語り継ぎ、広げましょう

- ①平和のための戦争展や平和盆踊り、市民まつりなどに積極的に参加し、被爆の実相を広く宣伝しましょう。
- ②小金井市の後援を取りつけて、東西南北の4地域で「原爆と人間展」の開催や反核映画会を開催しましょう。
- ③被爆者の高齢化が進む中、被爆体験を若い世代へと語り継ぐ折鶴桜会と共同し、「被爆体験を聞くとどい」を開催しましょう。
- ④原爆症認定訴訟を支援し、裁判の傍聴などに積極的に参加しましょう。

4、小金井市の反核・平和行政を充実させるために

- ①非核・平和宣言都市にふさわしく、平和行政を推進していくために、小金井市が実施している非核映画会やパネル展などを市民参加形式にして実施するよう市と交渉しましょう。
- ②「核兵器廃絶の国際条約締結で核兵器のない平和な地球を」の横断幕を、長期間にわたって掲示するよう働きかけましょう。
- ③JR 武蔵小金井駅南口の駅前広場に非核宣言都市の平和の塔を建設し、平和条例を策定、平和と戦争に関する市内の資料収集の促進と公開を実施するよう、市と議会に働きかけましょう。

5、原水協の組織強化のために

- ①加盟団体は原水協の方針を団体内で徹底し、活動に参加するよう働きかけましょう。
- ②理事会の強化のために、理事の任務を明確にして活動を進めましょう。
- ③未加盟団体や未結集の団体への働きかけを強化し、原水協を強く大きくしましょう
- ④小金井原水協の機関紙「青い空」の定期発行は、原水協の活動の命とも言うべき役割を果たします。編集委員会を作り定期発行しましょう。